

「～てしまう」の補助動詞構文と感情表現に関する分析

アンディ・イルマ・サルジャニ

ダルマプルサダ大学 言語文化学部 日本語・日本文化学科(インドネシア)

andiirma2210@gmail.com

要旨

本研究は、日本語の補助動詞構文「～てしまう」が持つ、文法的機能と感情表現機能の両面に着目して分析を行うものである。従来、「～てしまう」は、動作や出来事の完了、結果、あるいは不可逆性を表す文法形式として理解されてきたが、実際の言語使用においては、それだけでなく話者の心理的な態度や感情も同時に表出することが多い。たとえば、後悔(忘れてしまった)、安堵(終わってしまった)、意図しない行為(壊してしまった)など、文脈に応じて多様な感情が読み取れる。このような現象を明らかにするために、本研究では、現代日本語の書き言葉および話し言葉のコーパスから約200例の「～てしまう」構文を収集し、文脈的特徴と意味的傾向を分析した。分析の結果、感情的含意は主に次の4つのカテゴリーに分類できることが明らかになった。(1)望ましくない結果に対する後悔や落胆、(2)困難な状況からの解放による安堵、(3)予期せぬ行為や事故に対する弁明、(4)事態の完結性・不可逆性の強調である。さらに、本研究はこの構文がどのようにして単なる相的表現から感情を伴う言語形式へと発展したか、すなわち文法化の観点からも考察する。形式的には同じ「～てしまう」であっても、語用論的な働きとしては、話者の意図や態度、対人関係への配慮などが反映されており、言語使用における微妙な感情の伝達手段として機能していることがわかった。本研究の成果は、日本語の感情表現の理解を深めるだけでなく、日本語教育においても「～てしまう」の多義性と用法の整理に役立つと考えられる。特に、第二言語話者がよく誤用する場面に焦点を当て、指導上の注意点を提示することによって、より自然で的確な言語運用能力の育成に貢献することを目的とする。

キーワード: 日本語文法、～てしまう構文、感情表現